

ハチ刺され・へびかまれ対策 熱中症の予防・対応・応急処置

1.職場で備える！

ハチ刺され・蛇かまれの予防と応急対応

講師：産業保健相談員 中屋 重直（認定産業医、労働衛生コンサルタント）

会場では、「練習用エピペン®ト
レーナー」を使った自己注射器
の実技練習を行います！

2.職場で防ぐ熱中症！

予防・対応・応急処置の実践研修

講師：産業保健相談員 大塚 尚寛（岩手大学名誉教授、工学博士）

開催日時

5月15日（木）13：30～16：00（開場 13：00）

会場 盛岡市 アイーナ
7階 702会議室

対象者 事業主、衛生管理者、衛生推進者、
保健師、看護師、人事労務担当者
他

定員 会場参加 10名
Web参加 10名
※定員を超え次第申込を締め切らせて
いただきます。

※4月申込受付開始となります。



QRコードからどうぞ

研修概要

1. 昨年、岩手県内の草刈り作業現場で、作業者が左上腕部をハチにさされ、蜂刺症により死亡する労災が発生しました。重篤なアレルギー反応を起こすおそれがある方が蜂に刺された場合、特に2回目以降はアナフィラキシーショックを起こし、死亡する危険があります。ハチ刺されによる死亡災害を防止するためには、ハチに刺されることを防ぐことに併せ、重いアレルギー反応を起こすリスクが高い方に事前に医療機関で蜂アレルギーの検査または診察を受け、自己注射器（エピペン）を携帯させる必要があります。

ハチアレルギーについて、また、アレルギー検査やポイズンリムーバとエピペンの使用デモ等について、認定産業医・労働衛生コンサルタントである講師から詳しく説明しますので、林業関係者はもちろん、屋外で作業を行う会社のご担当者の方など、幅広い業種の参加者をお待ちしております。

2. 全国の職場における熱中症による死亡災害は、ここ数年30人を超えて発生しています。熱中症による死亡者の約7割は屋外作業で、そのほとんどが「初期症状の放置・対応の遅れ」が原因で、死亡に至ったとされています。このような状況から、厚生労働省では、労働安全衛生規則を改正し、職場で熱中症の自覚症状やそのおそれがある人を早く見つけて適切な対策を取ることを、令和7年6月から義務づけることとしています。研修では、規則の改正内容はもとより、熱中症の初期対応の遅れが重症化を招くリスクを解説します。冷水・アイススラリーによる冷却法やブレーキングの活用、発症時の応急マニュアルを学び、職場の熱中症対策を強化しましょう！

申込方法

岩手産保ホームページ

研修・セミナー



⇒「研修お申込フォーム」からお申込み
下さい。なお、会場参加の方には、受講票をお送りいたしますので、研修会
当日会場受付で提示願います。